

* 本脚本 供 电 影 爱 好 者 和 日 语 学 习 者 阅 读 学 习 使 用 ， 版 权 属 于 原 作 者

ちひろ
父 千尋。千尋、もうすぐだよ。

いなか か もの となりまち
母 やっぱり田舎ねー。買い物は隣町に行くしかなさそうね。

す みやこ
父 住んで都にするしかないさ。

しょうがっこう ちひろ あたら がっこう
ほら、あれが小学校だよ。千尋、新しい学校だよ。

けっこう がっこう
母 結構きれいな学校じゃない。

お
「しゅしゅ起きあがってあかんべをする千尋。」

まえ ほう
千尋 前の方がいいもん。

はなしお
…あつ、あああ！おかあさん、お花萎れてっちゃった！

にぎ みずき だいじょうぶ
母 あなた、ずーっと握りしめてるんだもの。おうちについたら水切りすれば大丈夫よ。

はじ はなたば わか かな
千尋 初めてもらった花束が、お別れの花束なんて悲しい…

たんじょうび
母 あら。この前のお誕生日にバラの花をもらったじゃない？

いっぽん い
千尋 一本ね、一本じゃ花束って言えないわ。

お
母 カードが落ちたわ。

まどあ きょう いそが
窓開けるわよ。もうしゃんとしてちょうだい！今日は忙しいんだから。

タイトル

みち まちが
父 あれ？道を間違えたかな？おかしいな…

母 あそこじゃない？ほら。

父 ん？

すみ あお いえ
母 あの隅の青い家でしょ？

いっぽんした みち き い
父 あれた。一本下の道に来ちゃったんだな。…このまま行っていけるのかな。

まよ
母 やめてよ、そうやっていつも迷っちゃうんだから。

父 ちょっとだけ、ねっ。

千尋 あのうちみたいの何？

母 石のほこら。^{かみさま}神様のおうちよ

父 おとうさん、大^{だいじょうぶ}丈夫？

父 まかせとけ、この^{くるま}車は四^{よんく}駆だぞ！

千尋 うあっ—

母 千尋、座^{すわ}ってなさい。

千尋 あっ、うわっ…わっ、わっ！

うあああああっ！

母 あなた、いいかげんにして！

父 行き止まりだ！^ど

母 なあに？この^{たてもの}建物。

父 門^{もん}みたいだね。

母 あなた、戻りましょう、あなた。

千尋？…もう。

父 何だ、モルタル^{せい}製か。結構^{あたら}新しい建物だよ。

千尋 …風^{かぜ}を吸^{すいこ}込んで…

母 なあに？

父 ちょっと行ってみない？むこうへ^ぬ抜けられるんだ。

千尋 ここいやだ。戻^{もど}ろうおとうさん！

父 な—んだ。恐^{こわ}がりだな千尋は。ねっ、ちょっとだけ。

母 引^{ひっこし}越センターのトラックが来ちゃうわよ。

父 平気だよ、カギは^{かぎ}渡^{わた}してあるし、全^{ぜんぶ}部^ぶやってくれるんだろ？

母 そりゃそうだけど…

千尋 いやだ、わたし行かないよ！

戻ろうよ、おとうさん！

父 おいで、平気だよ。

千尋 わたし行かない！

うう…ああっ！

母 千尋は^{くるま}車^{なか}の中^まで待^{まち}ってなさい。

千尋 うう…おかあさーん！

まってえーっ！

父 ^{あしもとき} 足 下 気をつけな。

母 千尋、そんなにくつつかないで。^{ある} 歩きにくいわ。

千尋 こどここ？

母 あっ。^き ほら聞こえる。

千尋 …^{でんしゃ} 電 車 の 音 ！

母 ^{あんがいえき} 案 外 駅 が 近 い の か も し れ な い ね。

父 いこう、すぐわかるさ。

千尋 ^{いえ} こんなとこに 家 がある…

父 やっぱ^{まちが}り間 違 い ない ね。テマパークの ^{ざんがい} 残 骸 だよ、これ。

90年頃にあっちこっちでたくさん ^{けいかく} 計 画 されてさ。バブルがはじけてみんな ^{つぶ} 潰 れ ちゃ っ た ン だ。こ
れもその一つだよ、きっと。

千尋 ええーっ、まだ行くの！？おとうさん、もう ^{かえ} 帰 ろ う よ う ！

ねえ——っ！

千尋 おかあさん、あの建物うなってるよ。

母 ^{かぜな} 風 鳴 り で し ょ。気 持 ち い い と こ ね ー、車 中 の ^{きも} サ ン ド イ ッ チ 持 っ て くれ ば 良 っ た。

父 ^{かわ} 川 を 作 ろ う と し た ン だ ね ー。

ん？^{にお} なんか 匂 わ ない ？

母 え？

父 ほら、うまそうな匂いがする。

母 あら、ほんとね。

父 案外まだやってるのかもしれないよ、ここ。

母 千尋、はやくしなさい。

千尋 まーってー！

父 ふん、ふん…こっちだ。

母 ^{あき} 呆 れ た。これ ^{ぜんぶ} 全 部 ^た 食 べ ^{ものや} 物 屋 よ。

千尋 ^{だれ} 誰もいないねー。

父 ン？あそこだ！

おーい、おーい。

はあー。うん、わあ。

こっちこっち。

母 わあー、すごいわねー。

父 すみませーん、どなたかいませんかー？

母 千尋もおいで、おいしそうよ。

父 すいませーん！

母 いいわよ、そのうち来たらお金 ^{かねはら} 払えばいいんだから。

父 そうだな。そっちにいいやつが…

母 これなんていう鳥 ^{とり} かしら。…おいしい！千尋、すごくおいしいよ！

千尋 いらない！ねえ帰ろ、お ^{みせ} 店 ^{ひと} の ^{おこ} 人に怒られるよ。

父 大丈夫、お父さんがついてるんだから。カードも財 ^{さいふ} 布も持ってるし。

母 千尋も食べな。骨 ^{ほね} まで ^{やわ} 柔らかいよ。

父 ^{からし} 辛子。

母 ありがと。

千尋 おかあさん、おとうさん！

「^{あきら}諦 ^{ある}めて ^だ歩き出す千尋。 ^{あぶら}油 ^や屋 ^{たても}の ^み建物を ^み見つける。」

千尋 へんなの。

千尋 電車だ！…？

ハク様 ^{さま} …！ここへ来てははいけない！すぐ戻れ！

千尋 えっ？

ハク様 ^{よる} じきに夜になる！その前に早く戻れ！

…もう明かりが入った、急いで！私 ^あ が ^{はい} 時間 ^{いそ} を ^{わたし} 稼 ^{じかん} ぐ、 ^{かせ} 川 ^{かわ} の ^む 向 ^{はし} こうへ ^{はし} 走れ！

千尋 なによあいつ…

「^あ明 ^{はい} かり ^{どうじ} が ^{かげ} 入 ^{うご} る ^だ と ^だ 同時 ^だ に、 ^だ た ^だ く ^だ さ ^だ ん ^だ の ^だ 影 ^だ が ^だ 動 ^だ き ^だ 出 ^だ す。」

千尋 ……！おとうさーん！

おとうさん帰ろ、帰ろう、おとうさーん！

「座^{ぶた}っていた豚^{ふむ}が振り向く。」

千尋 ひいい…っ

「豚^{たお}がたたかれて倒れる。」

豚 ブギィィィ！

千尋 うわああーっ！

おとおさーん、おかあさーん！

おかあさーん、ひっ！

ぎゃああーっ！

千尋 ひゃっ！…水^{みず}だ！

うそ…夢^{ゆめ}だ、夢だ！さめろさめろ、さめろ！

さめてえ…っ…

これはゆめだ、ゆめだ。みんな消^きえろ、消^きえろ。きえろ。

あっ…ああっ、透^すけてる！あ…夢^{ゆめ}だ、絶^ぜ対^{たい}だ！

「ふね せつがん かすが で
船^{ふね}が接^{せつ}岸^{がん}し、春日^{かすが}さまが出てくる。」

千尋 ひっ…ひっ、ぎゃあああーっ！

「千尋^{さが}を捜^{くら}すハク。暗^{やみ}闇^みにいる千尋^みを見つ^{かた}けて肩^だを抱^だく。」

千尋 っっっ！

ハク様 怖^{こわ}がるな。私^{わたし}はそなたの味^み方^{かた}だ。

千尋 いやっ、やっ！やっっ！

ハク様 口^{くち}をあ^あけて、これ^はを早^{はや}く。この世^せ界^{かい}のもの^たを食べ^きないとそなたは消^きえてしまう。

千尋 いやっ！…っ！？

ハク様 大丈夫、食^かべても豚^のにはならない。噛^かんで飲^のみなさい。

千尋 …ん…んう…んー…っ

ハク様 もう大丈夫。触^{さわ}ってごらん。

千尋 さわれる…

ハク様 ね？さ、おいで。

千尋 おとうさんとおかあさんは？どこ？豚なんかになってないよね！？

ハク様 ^{むり}今は無理だけど ^{かなら}必ず ^あ会えるよ。…！

しず
静かに！

「ハクが千尋を ^{かべ}壁に押しつけると、^お上 ^{じょうくう}空を湯ば一ぱが ^ゆ飛んでいく。」

ハク様 ^{さが}そなたを捜しているのだ。^{じかん}時間がない、^{はし}走ろう！

千尋 あっ…立てない、どうしよう！力が入らない…

ハク様 ^お落ち着いて、^つ深く ^{ふか}息を ^{いき}吸って ^すごらん… […]そなたの ^{うち}内なる ^{かぜ}風と ^{みず}水の名において… ^な…と ^{…と}解き

はな
放て…

た
立って！

千尋 あっ、うわっ！

「走り出す二人。」

ハク様 ^{はし}…橋を ^{わた}渡る ^{あいだ}間、^{いき}息をしてはいけないよ。

ちよつとでも ^す吸ったり ^は吐いたりすると、^{じゆつ}術が ^と解けて ^{みせ}店の ^{もの}者に ^き気づかれてしまう。

千尋 こわい…

ハク様 ^{こころ}心を ^{しず}鎮めて。

従業員 いらっしゃいませ、お ^{はや}早いお ^つ着きで。いらっしゃいませ。いらっしゃいませ。

ハク様 ^{しょう}所用からの ^{もど}戻りだ。

従業員 へい、お戻りくださいませ。

ハク様 ^{ふか}深く ^す吸って… ^と止めて。

「カオナシが千尋を見 ^{みおく}送る。」

湯女 いらっしゃい、お待ちしましたよ。

ハク様 しっかり、もう少し。^{すこ}

青蛙 ハク様あー。何処へ行っておったー？^{どこ い}

千尋 …！ぶはあつ

青蛙 ひっ、人か？

ハク様 …！走れ！

青蛙 …ん？え、え？

「あおかえる じゅつ に
青 蛙 に 術 をかけて逃げるハク。」

従業員 ハク様、ハク様！ええい匂わぬか、人が入り込んだぞ！臭いぞ、臭いぞ！^{ひと はい こ くさ}

ハク様 勘づかれたな…^{かん}

千尋 ごめん、私 息しちやった…

ハク様 いや、千尋はよく頑張った。これからどうするか 離すからよくお聞き。ここには必ず見つかる。^{がんば はな き}

私が行って誤魔化すから、そのすきに千尋はここを抜け出して…^{ごまか ぬ だ}

千尋 いや！行かないで、ここにいて、お願い！^{ねが}

ハク様 この世界で生き延びるためにはそうするしかないんだ。ご両親を助けるためにも。^{せかい い の りょうしん たす}

千尋 やっぱり豚になったの夢じゃないんだ…^{ぶた}

ハク様 じっとして…

さわ おさ うら ど で そと かいだん いちばんした
騒ぎが収まったら、裏のぐり戸から出られる。外の階段を一番下まで下りるんだ。そこ

にボイラー室の入口がある。火を焚くところだ。^{しつ いりぐち ひ た}

なか かまじい ひと あ
中に釜爺という人がいるから、釜爺に会うんだ。

千尋 釜爺？

ハク様 その人にここで働きたいと頼むんだ。断られても、粘るんだよ。^{はたら たの ことわ ねば}

ここでは仕事を持たない者は、湯婆婆に動物にされてしまう。^{しごと も もの ゆばーば どうぶつ}

千尋 湯婆婆…って？

ハク様 会えばすぐに分かる。ここを支配している魔女だ。嫌だとか、帰りたいとか言わせるよ^{あ わ しはい まじよ いや かえ い}

うに仕向けてくるけど、働きたいとだけ言うんだ。辛くても、耐えて機会を待つんだよ。そうす^{しむ はたら い つら た ま}

れば、湯婆婆には手は出せない。
千尋 うん…

従業員 ハク様あー、ハク様ー、どちらにおいでですかー？

ハク様 いかなきゃ。忘れないで、私は千尋の味方だからね。

千尋 どうして私の名を知ってるの？

ハク様 そなたの小さいときから知っている。私の名は——ハクだ。

ハク様 ハクはここにいるぞ。

従業員 ハク様、湯婆婆さまが…

ハク様 分かっている。そのことで外へ出ていた。

かいだん むか おそ おそ ぶ だ いちだんすべ お
「階段へ向う千尋。恐る恐る踏み出し、一段滑り落ちる。」

千尋 いやっ！

はっ、はあっ…

いちだんふ だ かいだん こわ はし だ
「もう一段踏み出すと階段が壊れ、はずみで走り出す。」

千尋 わ…っいやああああ——っ！やあああああああー！

お しつ
「なんとか下まで降り、そろそろとボイラー室へむかう。」

かまじい あと あつ かま さわ
「ボイラー室で釜爺をみて後ずさりし、熱い釜に触ってしまう。」

千尋 あっつ…！

おと
「カンカンカンカン(ハンマーの音)」

千尋 あの…。すみません。

かまじい
あ、あの…あの、釜爺さんですか？

釜爺 ん？…ん、んん——？

い はたら
千尋 …あの、ハクという人に言われてきました。ここで働かせてください！

よ りん おと
「リンリン(呼び鈴の音)」

釜爺 ええい、こんな^{いちど}に一度に…
チビども、仕事だー！

「カンカンカンカンカンカン」

釜爺 わしゃあ、釜^{かま}爺^じだ。風呂釜^{ふろかま}にこき^{つか}使われとるじじいだ。
チビども、はやくせんか！
千尋 あの、ここで働かせてください！

釜爺 ええい、手^ては足^たりとする。そこら中ススだらけだからな。いくらでも代わりはおるわい。

千尋 あっ、ごめんなさい。
あっ、ちょっと待って。
釜爺 じゃまじゃま！

千尋 …あっ。

おも つぶ せきたん も あ に かえ
「重^{おも}さで潰^{つぶ}れたススワタリの石^{せきたん}炭^もを持ち上げる千尋。ススワタリは逃げ^に帰^{かえ}ってゆく。」

千尋 あっ、どうするのこれ？
ここにおいといていいの？
釜爺 手^てえ出すならしまいまでやれ！
千尋 えっ？…

せきたん かま はこ まね
「石^{せきたん}炭^{かま}を釜^{はこ}に運^{まね}ぶと、ススワタリみんなが潰れた真似をしだす。」
「カンカンカンカン」

釜爺 こらあー、チビどもー！ただのススにもどりにてえのか！？

あんたも気まぐれに手^きえ出して、人^ての仕事^だを取^{ひと}っちゃならね。働^{しごと}かなきゃな、こいつらの魔法^{はたら}
^{まほう}
は消えちまうんだ。

ここにあんたの仕事^{しごと}はねえ、他^{ほか}をあ^あたってくれ。
…なんだおまえたち、文句^{もんく}があるのか？仕事^{しごと}しろ仕事！

リン メシだよー。なあんだまたケンカしてんのー？
よしなさいよもうー。うつわは？ちゃんと出しといてって言うてるのに。

釜爺 おお…メシだー、休憩きゆうけいー！

リン うわ！？

にんげん 人間うえ おおさわがいちゃ！…やばいよ、さつき上で大騒ぎしてたんだよ！？

釜爺 わしの…孫まごだ。

リン まごオ？！

釜爺 働きたいと言うんだが、ここは手が足りとる。おめえ、湯婆婆ゆばーばンとこへ連れてってくれねえ
か？後あとは自分じぶんでやるだろ。

リン やなこった！あたいが殺ころされちまうよ！

釜爺 これでどうだ？イモリの黒焼きくろや。じょうほんだぞ。

どのみち働くには湯婆婆けいやくと契約うん ためせにやならん。自分で行って、運を試しな。

リン …チェッ！そこの子、ついて来な！

千尋 あっ。

リン …あんたネエ、はいとかお世話せわになりますとか言えないの！？

千尋 あっ、はいっ。

リン どんくさいね。はやくおいで。

くつ も くつした
靴なんか持ってどうすんのさ、靴下くつしたも！

千尋 はいっ。

リン あんた。釜爺れいいいにお礼せわ言ったの？世話せわになったんだろ？

千尋 あっ、うっ！…ありがとうございました。

釜爺 グッドラック！

リン 湯婆婆は建物のてっぺんのその奥おくにいるんだ。

早くしろよオ。

千尋 あっ。

リン 鼻はながなくなるよ。

千尋 っ…

リン ^{いっかいの つ}もう一回 乗り継ぐからね。
千尋 はい。

リン いくよ。
…い、いらっしやいませ。

お ^{きゃく}客 ^{うえ}さま、このエレベーターは上へは ^{まい}参りません。他 ^{ほか}をお探 ^{さが}し ^{くだ}下さい。

千尋 ついてくるよ。
リン きよろきよろすんじゃないよ。

蛙男 ^{とうちゃく}到着 でございます。
みぎて ^{ざしき}右手のお座敷 でございます。
?…リン。
リン はい。(ドン!)
千尋 うわっ!

蛙男 ^{にんげん}なんか匂わぬか? 人間 だ、おまえ人間くさいぞ。
リン そーですかあー?

蛙男 ^{かく}匂う匂う、うまそうな匂いだ。おまえなんか ^{しょうじき}隠しておるな? ^{もう}正直に申せ!
リン この匂いでしょ。
蛙男 黒焼き! …くれえ一つ!

リン やなこった。お姉さま ^{がた たの}方に頼まれてんだよ。

蛙男 ^{あしいっぽん}頼む、ちょっとだけ、せめて足一本!
リン 上へ行くお客さまー。レバーをお引き下さーい。

「『二天』につくが、『天』まで千尋を連れて行くおしらさま。」

お ^{おく}く ^あ奥のドアを開けようとする千尋。」

湯婆婆 …ノックもしないのかい! ?
千尋 やっ! ?

湯婆婆 ^{むすめ}ま、みっともない 娘 が来たもんだね。
さあ、おいで。…おいで一な~。
千尋 わっ! わ…っ!
いったあ~…

あたま よ
「頭 が寄ってくる。」

千尋 ひっ、うわあ、わあっ…わっ！
湯婆婆 うるさいね、静かにしておくれ。
千尋 あのー…ここで働かせてください！

まほう
「魔法 で口チャックされる千尋。」

ばか
湯婆婆 馬鹿なおしゃべりはやめとくれ。そんなひよろひよろに何が出来るのさ。

にんげん く やおよろず かみさまたち つか く
ここはね、人 間の来るところじゃないんだ。八百万の神 様 達が 疲 れをいやしに来るお
ゆや
湯屋なんだよ。

おや くち とうぜん むく
それなのにおまえの 親 はなんだい？お客さまの食 べ物を豚のように食 い散らして。当 然 の報
いさ。

もと せかい もど
おまえも元の世界 には戻れないよ。

こぶた せきたん て
…子豚にしてやろう。ええ？石 炭、という手もあるね。

ふる … よ だれ しんせつ せわ
へへへへっ、震 えているね。…でもまあ、良 くここまでやってきたよ。誰 かが親 切 に世話を
や
焼いたんだね。

誉めてやらなきゃ。誰だい、それは？教えておくれな…

千尋 …あっ。ここで働かせてください！

湯婆婆 まアだそれを言うのかい！

千尋 ここで働きたいんです！

湯婆婆 だア———まア———れエ———！

湯婆婆 なんてあたしがおまえを 雇 わなきゃならないんだい！？見るからにグズで！甘 ったれ

な むし あたま わる こむすめ しごと
で！泣き虫で！頭 の悪い小 娘 に、仕事なんかあるもんかね！

ことわ いじょうこくつぶ ふ
お 断 りだね。これ以 上 穀 潰 しを増やしてどうしようっていうんだい！

いちばん しごと し
それとも…一 番 つら——いきつ——い仕 事を死ぬまでやらせてやろうかあ…？

湯婆婆 …ハッ！？

坊 あ————ん、あ——ん、ああああ————

湯婆婆 やめなさいどうしたの坊や、今すぐ行くからいい子でいなさいね…まだいたのかい、さつさと出て行きな！

千尋 ここで働きたいんです！

湯婆婆 ^{こえ}大きな^だ声を出すんじゃない…うっ！あー、ちょっと^ま待ちなさい、ね、ねえ～。いい子だから、ほおらほら～。

千尋 働かせてください！

湯婆婆 わかったから静かにしておくれ！

おおおお～よ～しよし～…

^{かみ}紙と^{ほう}ペンが^と千尋の方へ飛んでくる。」

湯婆婆 ^{けいやくしょ}契約書だよ。そこに^{なまえ}名前を書きな。^か働^{はたら}かせてやる。その代わり^か嫌^{いや}だとか、^{かえ}帰^{かえ}りた
いと^いか言^{こぶた}ったらすぐ子豚にしてやるからね。

千尋 あの、名前ってここですか？

湯婆婆 そうだよもうぐずぐずしないでさつさと書きな！

まったく…つまらない^{ちか}誓^{ちか}いをたてちまったもんだよ。働きたい者には仕事をやるだなんて…
書いたかい？

千尋 はい…あつ。

湯婆婆 フン。千尋というのかい？

千尋 はい。

湯婆婆 ^{ぜいたく}贅^な沢な名だねえ。

今からおまえの名前は千だ。いいかい、^{せん}千^{せん}だよ。分かったら^{へんじ}返^{せん}事をするんだ、千！

^{せん}千 は、はいっ！

ハク様 お呼びですか。

湯婆婆 今日からその子が働くよ。世話をしな。

ハク様 はい。…名はなんという？

千 え？ち、…あ、千です。

ハク様 では千、来なさい。

千 ハク。あの…

ハク様 ^{むだくち}無駄口をきくな。私のことは、ハク様と呼べ。

千 …っ

父役 いくら湯婆婆さまのおっしゃりでも、それは…

兄役 ^{にんげん こま}人間は困ります。

ハク様 ^{すで}既に契約されたのだ。

父役 なんと…

千 よろしく願います。

湯女 あたしらのところには^よ寄せないどくれ。

湯女 ^{ひとくさ}人臭くてかなわんわい。

ハク様 この物を三日も食べれば匂いは消えよう。それで使^{つか}い物にならなければ、焼^やこう

^{に す}が煮ようが好きにするがいい。

しごと もど ^{どこ}仕事に戻れ！リンは何処だ。

リン ええっ、あたいに^お押しつけんのかよう。

ハク様 ^{てした}手下をほしがっていたな。

父役 そうそう、リンが^{てきやく}適役だぞ。

リン えっ。

ハク様 千、行け。

千 はいっ。

リン やってらんねえよ！埋め合わせはしてもらうからね！

兄役 はよいけ。

リン ^こフン！…来いよ。

リン …おまえ、うまくやったなあ！

千 えっ？

リン おまえトロイからさ、心^{しんぱい}配してたんだ。油^{ゆだん}断するなよ、わかんないことはおれに聞^きけ。

な？

千 うん。

リン …ん？どうした？

千 ^{あし}足がふらふらするの。

リン ここがおれたちの部屋だよ。食^へって寝^くりや元^ね気^{げん}になるさ。

はらが じぶん あら はかま
腹^は掛^かけ。自分^{じぶん}で洗^{あら}うんだよ。…袴^{はかま}。チビだからなあ…。でかいな。

千 リンさん、あの…

リン なに？

千 ここにハク^{ふたり}っていうひと二人^{ふたり}いるの？

リン 二人^{ふたり}い？あんなの二人^{ふたり}もいたらたま^{たま}ないよ。…だめか。

あいつは湯^て婆^{さき}の手^て先^{さき}だから気^きをつけな。

千 …んっ…ん…

リン …おかしいな…あああ、あ^あったあ^あった。ん？

おい、どうしたんだよ？し^しっかりし^しろよう。

女^め うるさいなー。なん^{なん}だよリン？

リン きも わる しんい
気^き持^もち悪^{わる}いんだ^{しんい}って。新^{しん}入^いりだよ。

「湯^と婆^とが鳥^{みお}にな^くって飛^とんでい^く。見^み送^おるハク。」

「寝^ねてい^{せん}る千^しのもとへ、ハク^しが忍^{しの}んでくる。」

ハク様^{はし} 橋^{ところ}の所^あへおいで。お父^あさんとお母^あさんに会^あわせてあ^あげる。

「へやぬだせん
部^へ屋^やを抜^ぬけ出^だす千^{せん}。」

千^{くつ} 靴^{くつ}がない。

…あ。あ^ありが^あとう。

「ススワタリ^てに手^てを振^ふる千^{せん}。」

「橋^{はし}の上^{うへ}でカオナシ^{かおなし}に会^あう。」

ハク様^{はし} おい^いで。

「はな あいだ とお ちくしゃ
花^{はな}の 間^{あいだ}を 通^{とお}り 畜^{ちく}舎^{しゃ}へ。」

千^ち …お^おとう^{とう}さんお^おか^かあ^あさん、私^{わたし}よ！…せ、千^ちよ！お^おか^かあ^あさん、お^おとう^{とう}さん！

びょうき
病 気かな、ケガしてる？

ハク様 いや。おなかが一杯で寝ているんだよ。人間だったことは今は忘れてる。

千 うっ…くっ…おとうさんおかあさん、きつと助けてあげるから、あんまり太っちゃだめだよ、食べられちゃうからね！

かきね した せん ふく わた
「垣根の下でうずくまる千。ハクが服を渡す。」

ハク様 これは隠しておきな。

千 あっ！…捨てられたかと思ってた。

ハク様 帰るときにいるだろう？

千 これ、お別れにもらったカード。ちひろ？…千尋って…私の名だわ！

ハク様 湯婆婆は相手の名を奪って支配するんだ。いつもは千でいて、本当の名前はしっかり隠しておくんだよ。

千 私、もう取られかけてた。千になりかけてたもん。

ハク様 名を奪われると、帰り道が分からなくなるんだよ。私はどうしても思い出せないんだ。

千 ハクの本当の名前？

ハク様 でも不思議だね。千尋のことは覚えていた。

お食べ、ご飯を食べてなかったろ？

千 食べたくない…

ハク様 千尋の元気が出るように呪いをかけて作ったんだ。お食べ。

千 …ん…ん、んっ……うわあああ——、わあああ——、あああ——ん…

ハク様 つらかったろう。さ、お食べ。

千 ひっく…うああ——ん…

ハク様 一人で戻れるね？

千 うん。ハクありがとう、私がんばるね。

ハク様 うん。

かえ ぎわ そら のぼ しろ りゅう み
「帰り際、空に昇る白い竜を見つける。」

千 わあっ。

かまじい みず の お ね せん み ざぶとん か
「釜 爺 が 水 を 飲みに 起き、寝ている 千 を 見つける。座布団を掛けてやる。」

「湯婆婆が戻ってくる。」

リン どこ行ってたんだよ。心配してたんだぞ。

千 ごめんなさい。

なふだ か てまど せん
「名 札 を 掛けるのに 手間取る 千 。」

湯女 じゃまだねえ。

リン 千、もっと ^{ちから}力 はいんないの？

兄役 リンと千、今日から大 ^{おおゆばん}湯 番だ。

リン ええーっ、あれは ^{かえる}蛙 の仕事だろ！

兄役 ^{うわやく めいれい ほねみ お}上 役 の 命 令 だ。骨 身 を 惜しむなよ。

みず す く せん そと た
「水 を 捨てに来る 千 。外 に 立っているカオナシを見つかる。」

千 あの、そこ ^ぬ濡れませんか？

リン 千、早くしろよ！

千 はーい。…ここ、開けときますね。

湯女 ^{おおゆ}リン、大湯だって？

リン ほっとけ！

リン ひでえ、ずーっと洗ってないぞ。

ころ
「転ぶ千。」

千 うわっ！…あーっ。

リン この風呂はさ、汚しのお客専門なんだよ。うー、こびりついてと取れやしねえ。

兄役 リン、千。一番客が来ちまうぞ。

リン は——い今すぐ！チッ、下いびりしやがって。

いっかいくすりゆい
一回薬湯入れなきゃダメだ。千、番台行って札もらってきな。

千 札？…うわっ！

リン 薬湯の札だよ！

千 はあーい。…リンさん、番台ってなに？

湯婆婆 ん？…なんだろうね。なんか来たね。

あめ まぎ
雨に紛れてろくでもないものが紛れ込んだかな？

まち すす
「街を進んでくるオクサレさま。」

番台蛙 そんなもったいないことが出来るか！…おはようございます！良くお休みになれましたか！

かすがさま
湯女 春日様。

番台蛙 はい、硫黄の上！…いつまでいたって同じだ、戻れ戻れ！手でこすればいいんだ！

おはようございます！…手を使え手を！

千 でも、あの、薬湯じゃないとダメだそうです。

番台蛙 わからんやつだな…あっ、ヨモギ湯ですね。どーぞごゆっくり…

千 あっ…

はいご
「背後にカオナシを見つけて会釈する千。」

番台蛙 んん？

「リリリリリ」

番台蛙 はい番台です！…あっ、…うわっ！？

千 あっ！ありがとうございます！

番台蛙 あー、違う！こら待て、おい！

湯婆婆 どしたんだい！？

番台蛙 い、いえ、なんでもありません。

湯婆婆 なにか入り込んでよ。

番台蛙 人間ですか。

湯婆婆 それを調^{しら}べるんだ。今日^{きょう}はハクがないからね。

リン ヘえーずいぶんいいのくれたじゃん。

これがさ、釜爺^この^ことこへ行くんだ。混^こんでないからすぐ来るよきっと。

これを引^ひけばお湯^ゆが出る。や^でってみな。

千 うわっ！…

リン 千てほんとドジな一。

千 うわ、す^{いろ}ごい色…

リン こいつにはさ、ミミズの干物^{ひもの}が^{はい}入^いってんだ。こんだけ濁^{にご}ってりゃこすらなくても同^{おな}じだな。

いっぱいになったらもう一^{いっかい}回^ひ引^ひきな、止^とまるから。もう放^{はな}して大^{だい}丈^{じょう}夫^ぶだよ。おれ朝飯^{あさめし}取^とってくんな！

千 はあーい。…あつ。

「カオナシを見^みつける。風呂^{ふろ}の縁^{えん}から落^おちる千。」

千 うわっ！…いったい…った…

あの、お風呂まだなんです。

わ…こんなにたくさん…

えっ、私にくれるの？

カオナシ あ、あ、…

千 あの…それ、そんなにいらない。

カオナシ あ、…

千 だめよ。ひとつでいいの。

カオナシ あ…

千 え…あつ！

「釜から水があふれる。」

千 うわあつ！

おくさま
父役 奥様！

湯婆婆 ^{かみ}クサレ神 だって！？

父役 ^{とくだい}それも特大のオクサレさまです！

従業員 ^{はし む}まっすぐ橋へ向かってきます！

従業員達 お帰り下さい、お帰り下さい！

青蛙 ^{かえ くだ}お帰り下さい、^{ひ と くだ}お引き取り下さい、^{かえ くだ}お帰り下さい！
うっ…くっさいい～…！

湯婆婆 うう～ん…おかしいね。クサレ神なんかの気配じゃなかったんだが…

来ちまったものは仕方ない。^{むか}お迎えしな！
こうなったら出来るだけはやく引き取ってもらうしかないよ！

兄役 リンと千、湯婆婆様がお呼びだ。

千 あ、はいっ！

湯婆婆 ^{はつしごと}いいかい、おまえの初仕事だ。これから来るお客を大湯で世話するんだよ。

千 …あの～…

湯婆婆 ^{よん ご い}四の五の言うと、^{せきたん}石炭にしちまうよ。わかったね！

父役 み、見えました…ウツ…

湯婆婆・千 ウウツ…！

湯婆婆 …おやめ！お客さんに失礼だよ！
^{しつれい}

が・が…ヨク オコシクダしゃいマシタ…

え？あ オカネ…千！千！^{はや う とり}早くお受け取りな！

千 は、はいっ！

(ベチャツ)

千 うう…！

湯婆婆 ナニ してるんだい…！ハヤク ^{あんない}ご案内しな！

千 ど どうぞ …

リン セー——ン！

うえっ…くっせえ…あつ、メシが！

湯婆婆 まど あ ぜんぶ
窓をお開け！全部だよ！

おおゆ と こ うなが
「大湯に飛び込み、千に何かを促すオクサレさま。」

千 えっ？あ、…ちょっと待って！

「上から見ている湯婆婆と父役。」

湯婆婆 きたな
フッフフ、汚いね。

父役 わらごと
笑い事ではありません。

湯婆婆 あの子どうするかね。

…ほお、たゆき
足し湯をする気だよ。

父役 きたな て かべ さわ
ああああ、汚い手で壁に触りおって！

千 あっ…あっ！

ふださ お ほか と おく
「札を下げようとして落とす千。他の札を取って釜爺に送る。」

湯婆婆 んん？千に新しい札あげたのかい？

父役 まさかそんなもったいない…

千 わっ！

ゆ ひも ひ
「湯の紐を引きながら落ちる千。ヘドロにはまる。」

父役 こうか くすりゆ
あああ一つ、あんな高価な薬湯を！

「オクサレさまにひばだ
引っ張り出される千。何かに手を触れる。」

千 …？あっ？

リン セー——ン！千どこだ！

千 リンさん！

リン だいじょぶかあ！釜爺にありったけのお湯出すように頼んできた！^{さいこう}最高の薬湯おごってくれるって！

千 ありがとう！あの、ここにトゲみたいのが刺さってるの！

リン トゲ——？

千 ^{ふか}深くて取れないの！

湯婆婆 トゲ？トゲだって？…ううーん…

した ^{にんずう あつ}下に人数を集めな！

父役 ええっ？

湯婆婆 ^{いそ}急ぎな！

千とリン、そのお方はオクサレ神ではないぞ！

このロープをお使^{づか}い！

千 はいっ！

リン しっかり持ってな！

千 はいっ！

湯婆婆 ぐずぐずするんじゃないよ！^{おんな ちから あ}女も力を合わせるんだ！

千 ^{むす}結びました！

湯婆婆 ん——湯屋一同、心^{ゆ やいちどう ころ}をこめて！エイヤ——ソ——レ——
一同 そ——れ、そ——れ！

そ——れ、そ——れ！

千 ^{じてんしゃ}自転車？

湯婆婆 やはり！さあ、きばるんだよ！

「オクサレさまからたくさんのごみが出てくる。」

河の主 はア——…

千 うっわっ…わあっ！

みず ^{なが}なが ^{つつ}つつ
「水の流^{なが}れに包^{つつ}まれる千。」

リン セー——ン！だいじょぶかあ！？

河の主 …^{よ かな}佳き哉…

千 あっ…

「千の手に^{のこ だんご}残る団子。」

湯婆婆 んん…？

従業員 ^{さきん}砂金だ！

砂金だ！わあ—っ！

湯婆婆 静かにおし！お客さまがまだおいでなんだよ！

千！お客さまの^{じゃま お}邪魔だ、そこを下りな！

おおど あ ^{かえ}お帰りだ！
大戸を開けな！

河の主 あははははははははは…

神様達 やんや——やんや——！

湯婆婆 セーン！よくやったね、大^{おお}もうけだよ！

ありやあ名のある河^{かわ めし}の主だよ～。みんなも千を見^{みならい}習いな！今日は一本^{いっぽんつ}付けるからね。

みんな おお—！

湯婆婆 さ、とった砂金を全部だしな！

みんな ええ—っ！そりゃねえやな…

「仕事が終わって、部屋の前でくつろぐ千。」

リン 食う？かっぱらってきた。

千 ありがとう。

リン あー、やれやれ…

千 …ハク、いなかったねー。

リン まあたハクかよー。…あいつ^{ときどき}時々いなくなるんだよ。噂^{うわさ}じゃさあ、湯婆婆にやばいことやらされてんだって。

千 そう…

女 リン、消すよー。

リン ああ。

千 街がある…海みたい。

リン あたりまえじゃん、雨が降りゃ海くらいできるよ。
おれいつかあの街に行くんだ。こんなとこ絶対にやめてやる。

「ふと、団子をかじってみる千。」

千 ヲツ…ううっ…

リン ん？…どうした？

「にんき おおゆ しの こ あおかえる
人気のない大湯に忍び込む青蛙。」

青蛙 ん？んん—っ…

…さきん …あ。おぬし！何者だ。客人ではないな。そこに入っはいけないのだぞ！

…おっ！おっ、きん だ金だ！こ、これをわしにくれるのか？

カオナシ あ、あ…

青蛙 き、きん だ金を出せるのか？

カオナシ あ、あ、…

青蛙 くれ〜っ！

青蛙 わあっ！

「カオナシにひとのみにされる青蛙。」

兄役 誰ぞそこにおるのか？しょうとうじかん 消灯時間はどうに過ぎたぞ。

うっ…？

カオナシ あにえき 兄 役どの、おれは はら へ 腹が減った。はら 腹 ぺこだ！

兄役 そ、その声は…

カオナシ まえきん 前 金だ、う と 受け取れ。わしは きやく 客 だぞ、ふろ 風呂にも はい 入るぞ。みんなを お 起こせえっ！

千 お父さんお母さん、河の神様からもらったお団子だよ。これを食べれば人間に戻れるよ、きつと！

「たくさんの豚が^{いっせい}一斉にこっちを見る。」

千 お父さんお母さんどこ？おとうさーん…

千 ハッ！…やな夢。
…リン？…誰もいない…

千 わあっ、本当に海になってる！
ここからお父さんたちのとこ見えるんだ。
釜爺がもう火を焚^{ひ た}いてる。そんなに寝ちゃったのかな…

兄役 お客さまがお待ちだ、もっと早くできんのか！？
父役 ^{なまに}生煮えでもなんでもいい、どんどんお持ちしろ！
リン セーン！
千 リンさん。

リン ^{いまお}今^い起こし^{おも}に行こうと思^みったんだ。見な！
ほんもの ^{きん}金の^{きまえ}だ、もらったんだ。すげー^{きまえ}一気前のいい客が来たんだ。

「大湯に浸^つかってごちそうを食べまくるカオナシ。」

カオナシ おれは腹ペこだ。ぜーんぶ持ってこい！

千 そのお客さんって…

リン ^こ千も来い。湯婆婆まだ寝てるからチャンスだぞ。

千 あたし釜爺のとこ行かなきゃ。

リン 今 釜爺のとこ行かない方がいいぞ、たたき起こされてものすごい不機嫌だから！
女たち リン、もいっかい行こ！

リン ああ！

「部屋に戻る千。」

千 …おとうさんとおかあさん、分からなかったらどうしよう。おとうさんあんまり太ってたらやだなー。

はあ…

うみ なか しろ りゅう しきかみ お
「海の中を白い竜が式神に追いかけていく。」

千 ん？…ああっ！

橋のところで見た竜だ！こっちに来る！

なんだろう、鳥じゃない！…ひゃっ！

ハクーっ、しっかりーっ！こっちよーっ！…ハク！？

ハクーっ！

へや りゅう と こ まど し しきがみ と
「部屋に竜が飛び込む。窓を閉めようとする千に、式神が飛びかかる。」

千 うわあっ！わあああーっ！…あっ？

…ただの紙だ…

千 ハクね、ハクでしょう？

ケガしてるの？あの紙の鳥は行ってしまったよ。もう大丈夫だよ。…わっ！

湯婆婆の^しとこへ行くんだ。どうしよう、ハクが死んじやう！

お はし だ かた は つ
「竜を追って走り出す千の肩に式神が張り付く。」

兄役 そーれっ、さーてはこの世に極^{よ きわ}まれる♪お大^{だいじん}尽さまのおなりだよ♪そーれっ
みんな いらっしやいませ！

兄役 それおねだり♪あ、おねだり♪おねだり♪

さわ か
「騒ぎの中をエレベータへ駆けていく千。」

蛙男 おっ…と。こら、何をする。

千 上へ行くんです。

蛙男 ^{だめ だめ}駄目だ駄目だ。…ん？あっ！^ち血だ！

千 あっ…

兄役 どけどけ！お客さまのお^{とお}通りだ！

千 あ、あのときはありがとうございます。

兄役 何をしてる、早うど…うっ！？

カオナシ あ、あ、あ…

「千に両手^{りょうて}いっぱい^{きん さ だ}の金を差し出す。」

カオナシ え、え、…

千 …欲^ほしくない。いら^ほない！

カオナシ え、え…

千 私^{いそが}忙^{しつれい}しいので、失礼^{しつれい}します！

「こぼした金^{むら}に群^{ぐんしゅう}がる群^ぬ衆^ぬをすり抜けて千^ぬが出ていく。」

兄役 ええい、静^{しず}まれ！ 静^{しず}まらんか！ 下^さがれ下^さがれ！

これは、とんだご無^ぶ礼^{れい}を致^{いた}しました。なにぶん新^{しん}米^{まい}の人^{にん}間^{げん}の小^こ娘^{むすめ}でございまして…

カオナシ …おまえ、何^{なぜ}故^{わら}笑^{わら}う。笑^{わら}ったな。

兄役 ええっ、めっそもない！

兄役・湯女 わっ、わっ、わああっ！

まるの
「丸^{まる}呑みにされる兄役と湯女。皆がパニックで散^まっていく。」「窓からパイプづたいにはしごへ行^いこうとする千。走り出すと、パイプが外^{はず}れて崩^{くず}れていく。」

千 わっ、わっ、わっ、わあっ！

「かろうじてはしごに飛^とびつく千。はしごを登^{のぼ}り出^だす。」

千 はあっ、はあっ…あっ！ 湯^ゆ婆^ば婆^ば！

うっ、くっ…くっ！くっ…ああっ！

まど お あ ^{せん} 式^し神^かがカギ^かを ^{はず} 外^{はず}して ^{なか} 中^{なか}に ^お 落^おちる。 ^{ぼう} 坊^{ぼう}の ^{へや} 部^{へや}屋^{へや}へ。」

湯^ゆ婆^ば婆^ば ^{まった} 全^{まった}く ^{まった} なんて ^{まった} こと ^{まった} だろ ^{まった} ねえ。

千 ！

湯婆婆 そいつの正^{しょうたい}体はカオナシだよ。そう、カオナシ！

よく
欲にかられてとんでもない客を引き入れたもんだよ。あたしが行くまでよけいなことをすんじやないよ！

…あああ～、敷^{しきもの}物を汚^{よご}しちゃって。おまえたち、ハクを片^{かた}づけな！

千 はっ！

湯婆婆 もうその子は使いもんにならないよ！

千 あっ…あ、あ、あ…

「クッションの中に隠れる千。湯婆婆が来てクッションを探る。」

湯婆婆 ばあ～。

坊 んん——、ああ——ああ——

湯婆婆 ぼう
もう坊はまたベッドで寝ないで～。

坊 あ…あああ——ん、ああ——ん…

湯婆婆 ああああごめんごめん、いい子でおねんねしてたのにねえ。ばあばはまだお仕事があるの。

(ブチュ)

いいこでおねんねしててねえ～。

千 …あっ！…うう痛い離してっ！あっ、助^{たす}けてくれてありがとう、私^{いそ}急いで行かなくちゃならないの、離してくれる？

坊 おまえ病気うつしにきたんだな。

千 えっ？

坊 おんもにはわるいばいきんしかいないんだぞ。

千 私、人間よ。この世界じゃちょっと珍^{めづら}しいかもしれないけど。

坊 おんもは体^{からだ}にわるいんだぞ。ここにいて坊とおあそびしろ。

千 あなた病^{びょうき}気なの？

坊 おんもにいくと病気になるからここにいるんだ。

千 こんなとこにいた方が病気になるよ！…あのね、私のとても大切な人が大けがしてるの。だからすぐいかなきゃならないの。お願い、手を離して！

坊 いったらないちゃうぞ。坊がないたらすぐばあばがきておまえなんかころしちゃうぞ。こんな手すぐおっちゃうぞ。

千 うう痛い痛い！…ね、あとで戻^{もど}ってきて遊^{あそ}んであげるから。

坊 ダメ今あそぶの！

千 ううっ……

坊 …あ？

千 ^ち血！わかる？！血！

坊 …うわああ——あああああ——！！

千 あっ！ハク——！！

何すんの、あっち行って！しっしっ！ハク、ハクね！？しっかりして！

静かにして！ハク！？…あっ！

「湯バードにたかられる千。その隙に^{すき} ^{あたま}頭たちがハクを落とそうとする。」

千 あっ、わっ…あっち行って！

あっ！だめっ！

「部屋から坊が出てくる。」

坊 んんっ…んんんっ…

血なんかへいきだぞ。あそばないとないちゃうぞ。

千 待って、ね、いい子だから！

坊 坊とあそばないとないちゃうぞ…うええ～～…

千 お願い、待って！

式神 …うるさいねえ。静かにしておくれ。

坊 ええ…？

式神 あんたはちょっと^{ふと} ^す太り過ぎね。

ゆか ^{ぜに}一ば ^{あら}
「床から^す銭婆が現われる。」

銭婆 やっぱりちょっと^す透けるわねえ。

坊 ばあば…？

銭婆 やれやれ。お母さんとあたしの^{くべつ}区別もつかないのかい。

「魔法でねずみにされる坊。」

ほう すこ うご
銭婆 その方が少しは動きやすいだろ？
さあてと…おまえたちは何がいいかな？

「湯バードはハエドリに、頭は坊にされる。」

千 あっ…

銭婆 ふふふふふふ、このことはナイショだよ。誰かに ^{しゃべ} 喋るとおまえの ^{くち さ} 口が裂けるからね。

千 あなたは誰？

銭婆 湯婆婆の ^{ふたご} 双子の ^{あね} 姉さ。おまえさんのおかげで ^{けんぶつ} ここを見物できて ^{おもしろ} 面白かったよ。さあそ
^{りゅう} の ^{わたり} 竜を渡しな。

千 ハクをどうするの？ひどいケガなの。

銭婆 そいつは ^{いもうと} 妹の ^{てさき} 手先の ^{りゅう} どろぼう ^だ 竜だよ。私の ^{だいじ} 所から ^{ぬす} 大事なハンコを盗みだした。

千 ハクがそんなことしっこない！ ^{やさ} 優しい ^{ひと} 人だもん！

銭婆 竜はみんな優しいよ… ^{おろ} 優しくて ^{まほう} 愚かだ。魔法の ^{ちから} 力を ^{てい} 手に入れようとして ^{いもうと} 妹の ^{でし} 弟子になるなんてね。

^{わかもの} この ^{よくぶか} 若者は欲深な妹のいいなりだ。さあ、そこをどきな。どのみちこの竜はもう助からないよ。

^{まも} ハンコには ^{まじない} 守りの呪いが ^{ぬす} 掛けてあるからね、盗んだものは ^し 死ぬようにと…

千 …いや！だめ！

「坊になった頭が坊ネズミとハエドリを ^{いじ} 虐めている。」

銭婆 なんだろね、この ^{れんちゅう} 連中は。これおやめ、部屋にお戻りな。

白竜 グウ…！

^{すき} 「隙をついて ^{りゅう} 竜の ^お 尾が ^{しきかみ} 式神を ^ひ 引き裂く。」

銭婆 ！…ああら ^{ゆだん} 油断したねえ～…

はんどう
「反動で落ちる竜と千、坊ネズミ、ハエドリ。」

千 ハク、あ、きゃああ——っ！
ハク——っ！

「落ちていく中で水みずの幻影げんえいが浮かぶ。」

「力を振り絞って横穴よこあなに入る竜。換気扇かんきせんを破やぶってボイラー室に出る。」

釜爺 なっ…わあっ！

千 ハク！

釜爺 なにごとじゃい！ああっ、待ちなさい！

千 ハクっ！くる苦しいの！？

釜爺 こりゃあ、いかん！

千 ハクしっかり！どうしよう、ハクが死んじゃう！

釜爺 体の中で何かがいのち命くを食あい荒らしとる。

千 体の中？！

釜爺 強い魔法だ、わしにやあどうにもならん…

千 ハク、これ河の神様がくれたお団子き。効くかもしれない、食べて！

ハク、口を開けて！ハクお願い、食べて！…ほら、平気へいきだよ。

釜爺 そりゃあ、苦団子くだんごか？

千 あけてえっ…いい子だから…大丈夫。飲み込んで！

白竜 グォウツ、グォツ…！

釜爺 で出たっ、コイツだ！

千 あっ！

ハンコ！

釜爺 に逃げた！あっちあっち、あっち！

千 あっ、あっ！あああああっ、ああああっ！

(ベチャッ！)

釜爺 えーんがちよ、せい！えーんがちよ！

き
切った！

千 おじさんこれ、湯婆婆のおねえさんのハンコなの！

釜爺 銭婆の？…魔女の契約印けいやくじるしか！そりゃあまた、えらいものを…

千 ああっ、やっぱりハクだ！おじさん、ハクよ！

釜爺 おお…お…

千 ハク！ハク、ハクーっ！

おじさん、ハク^{いき}息してない！

釜爺 まだしとるがな。…魔法の^{きず}傷は^{ゆだん}油断できんが。

釜爺 …これで少しは^お落ち着くといいんじゃが…

ハクはな、千と同じように^{とつぜん}突 然ここにやってきてな。^{まほうつか}魔法使いになりたいと言っておった。

ワシは^{はんたい}反 対したんだ、^{でし}魔法の弟子なんぞろくな事がないってな。聞かないんだよ。もう帰るところはないと、とうとう湯婆婆の弟子になっちまった。

そのうち^{かおいろ}どんどん^{わる}顔 色が^め悪くなるし、^め目つきばかりきつくなってな…

千 釜爺さん、私これ、湯婆婆のおねえさん^{かえ}に返してくる。

返して、^{あやま}謝 って、ハクを助けてくれるよう頼んでみる。お姉さんの^{おし}いるところを^{おし}教えて。

釜爺 銭婆の所へか？あの^{こわ}魔法は^{こわ}怖 えーぞ。

千 お願い。ハクは私を助けてくれたの。

わたし、ハクを助けてたい。

釜爺 うーん…行くにはなあ、行けるだろうが、帰りがなあ…。待ちなさい。

たしか…どこに入れたか…

千 みんな、私の^{くつ}靴と^{ふく}服、お願いね。

リン 千！ずいぶんさがしたんだぞ！

千 リンさん。

リン ハクじゃん。…なんかあったのかここ。なんだそいつら？

千 ^{あたら}新しい^{ともだち}友達なの。ねっ。

リン 湯婆婆がカンカンになっておまえの^{さが}こと探してるぞ。

千 えっ？

リン ^{きまえ}気前がいいと思ってた客が^ばカオナシって化けもんだったんだよ。湯婆婆は千が引き入れたって言うんだ。

千 あっ…そうかもしれない。

リン ええっ！ほんとかよ！

千 だって、お客さんだと思ったから。

リン どうすんだよ、あいつもう三 ^{さんにん} 人も呑んじゃったんだぞ。

釜爺 あったこれだ！千あったぞ！

リン ^{いまいそが} じいさん今 忙 しいんだよ。

釜爺 これが使える。

リン ^{でんしゃ きつぷ} 電 車の切符じゃん、どこで手に入れたんだこんなの。

釜爺 ^{つか のこ} 四十年前の使 ^{むっ め ぬま} い残 ^{そこ} りじゃ。いいか、電車で六つ目の沼 ^{えき} の底という駅だ。

千 沼の底？

釜爺 とにかく六つ目だ。

千 六つ目ね。

釜爺 ^{まちが} 間 ^{むかし もど} 違 ^{でんしゃ} えるなよ。昔 ^{ちかごろ} は戻りの電 車があったんだが、近 頃は行きっぱなしだ。

それでも行くか千？

千 ^{せんろ} うん、帰りは線 路を歩いてくるからいい。

リン 湯婆婆はどうすんだよ？

千 これから行く。

ハク、きっと戻ってくるから、死んじゃだめだよ。

リン …何がどうしたの？

釜爺 ^{あい} わからんか。愛 ^{だ、愛} だ、愛。

湯女 きゃあああ——っ！ま、ますます大きくなってるよ！

湯女 ^く いやだ、あたい食われたくない！

湯女 来たよ！

父役 ^{おさ} 千か、よかった、湯婆婆様ではもう抑 ^{えられんのだ} えられるのだ。

湯婆婆 ^{あば} なにもそんなに暴 ^{れなくても} れなくても、千は来ますよ。

カオナシ 千はどこだ。千を出せ！

父役 ^{いそ} さ、急 ^げ げ。

湯婆婆様、千です。

湯婆婆 ^{おそ} 遅 ^い い！…お客さま、千が来ましたよ。ほんのちよっとお待ち下さいね。

何をぐずぐずしてたんだい！このままじゃ ^{おおぞん} 大 ^{しば} 損 ^{しば} だ、あいつをおだてて絞 ^{れるだけ} れるだけ金を絞 ^{りだ} りだせ…ん？

坊ネズミ チュー。

湯婆婆 なんだいその^{きたな}汚いネズミは。

千 えっ、あのー、ご^{ぞん}存じないんですか？

湯婆婆 知る^し訳^{わけ}ないだろ。おーいやだ。さ、いきな！…ごゆっくり。

父役 千ひとりで大丈夫でしょうか。

湯婆婆 おまえが^か代わるかい？

父役 エっ？

湯婆婆 フン！

カオナシ これ、^く食うか？うまいぞー。

金を出そうか？千の^{ほか}他^だには出してやらないことにしたんだ。

こっちへおいで。千は何がほしいんだい？言ってごらん。

千 あなたはどこから来たの？私すぐ行かなきゃならないところがあるの。

カオナシ ウウツ…

千 あなたは来たところへ帰った方がいいよ。私がほしいものは、あなたにはぜったい出せない。

カオナシ グウ…

千 おうちはどこなのお父さんやお母さん、いるんでしょ？

カオナシ イヤダ…イヤダ…サビシイ…サビシイ…

千 おうちがわからないの？

カオナシ 千欲しい…^ほ千欲しい…

欲しがれ。

千 私を食べる気？

カオナシ それ…取れ…

坊ネズミ チュウ！（ガブ）

カオナシ ケツ…

千 私を食べるなら、その前にこれを食べて。本当はお父さんとお母さんにあげたかったんだけど、あげるね。

カオナシ …ウツ！グハア…ゲホ、ゲホ…

セエン…^{こむすめ}小娘^くが、何を食わし…オグウ…

「カオナシが吐きながら千を追いかける。」

湯婆婆 みんなお^ど退き！お客さまとて^{ゆる}許せぬ！

カオナシ オグウ…！

湯婆婆 あらっ!?

千 こっちだよー! こっちー!

カオナシ グウウ…

に まわ は だ
「逃げ 回 る千を追いかけるカオナシ。湯女と兄役を吐き出す。」

カオナシ グハアツ…! …ハアツ、ハアツ…許せん…

そと で りん たらいせん だ ま
「外に出ると、リンが 盥 船 を出して待っている。」

リン セーーン! こっちだー!

千 こっーちだよー!

リン 呼んでどうすんだよ!

カオナシ あ、あ、…

千 あの^{ゆや}人湯屋にいるからいけないの。あそこを出た^{ほう}方がいいんだよ。

リン だってどこ連れてくんだよー!

千 わかんないけど。

リン わかんないって…! …あーあついてくんぞあいつ…

カオナシ …ごふっ!

「青蛙を吐き出すカオナシ。」

青蛙 ん?

リン こっから歩け。

千 うん。

リン 駅は行けば分かるって。

千 ありがとう。

リン 必ず戻って来いよ!

千 うん!

リン セーーン! おまえのことどんくさいって言ったけど、取り消すぞーー!

カオナシ! 千に何かしたら^{ゆる}許さないからな!

千 あれだ！
電車が来た。くるよっ。

千 ^{ぬま} あの、沼 ^{そこ} の底までお願いします。
えっ？…あなたも乗りたいの？
カオナシ あ、あ、…
千 あの、この人もお願いします。

カオナシ あ、あ、…
千 おいで。おとなしくしててね。

「ボイラー室で ^{めざ} 目覚めるハク。 ^ゆ 釜 ^お 爺を揺り起こす。」

ハク様 おじいさん。

釜爺 ん？んん…おおハク、^き ^つ 気が付いた。
ハク様 おじいさん、千はどこです。何があったのでしょうか、教えてください。

釜爺 おまえ、^{おぼ} なにも覚 ^お えてないのか？

ハク様 ^ぎ ^ぎ …切れ切れにしか思い出せません。 ^{やみ} 闇の中で千尋が何度も私を呼びました、その声を頼りにもがいて…気が付いたらここに寝ていました。

釜爺 そうか、千尋か。あの子は千尋というのか。…いいなあ、^{あい} ^{ちから} 愛の力 ^だ だなあ…

「^{すがた} ^{だんろ} ガウン ^姿 で暖炉の前に座る湯婆婆。」

湯婆婆 これっばかりの金でどう埋め合わせするのさ。千のバカがせつかくのもうけをファイにしちまって！

青蛙 で、でも、千のおかげでおれたち助かったんです。

湯婆婆 おだまり！みんな自分でまいた ^{たね} 種 ^{じゃ} ないか。それなのに勝手に逃げ出したんだよ。

あの子は自分の ^{おや} ^{みす} 親 ^を 見捨てたんだ！

おやぶた ^た ^{ごろ} 親 ^豚 は食べ頃 ^だ しろ、ベーコンにでもハムにでもしちまいな。

ハク様 お待ち下さい。

青蛙 ハク様！

湯婆婆 なあんだいおまえ。^い生きてたのかい。

ハク様 まだ分かりませんか？ 大^{たい}切^{せつ}なものがすり替^かわったのに…

湯婆婆 ずいぶん^{なまいき}生意^{くち}気な口を利^きくね。いつからそんなに偉^{えら}くなったんだい？
フン…

ま さき たし あわ ひとみ み
「真^まっ先^{さき}に金^{たし}を確^{あわ}かめる湯^{ひとみ}婆^みを哀^あれげな^{ひとみ}瞳^みで見^みるハク。」

ぼう め む じゅつ と あたま に
「ふと坊^{ぼう}に目^めを向^むけ術^{じゅつ}を解^とくと、頭^{あたま}たち^にが逃^にげていく。」

湯婆婆 な…あ…あ…

きんかい つち か
「金^{きん}塊^{かい}も土^{つち}に代^かわる。」

湯婆婆 …ああ…きiiiiii—坊———！

つち
青蛙 土^{つち}くれだ！

湯婆婆 坊———！どこにいるの、坊———！

出てきておくれ、坊——！坊、坊！

…おおのおれえええ———！キィィィ———！

ああたしの坊をどこへやったあ———！

ハク様 銭婆のところですよ。

湯婆婆 銭婆…？…ああ…

湯婆婆 なるほどね。^{せいあくじょ}性^{せい}悪^{あく}女^{じょ}め…それであたしに勝^かったつもりかい。

で！？どうすんだい！？

ぼう つ もど か りょうしん にんげん せかい もど
ハク様 坊^{ぼう}を連^つれ戻^{もど}してきます。その代^かわり、千^{りょうしん}と両^{にんげん}親^{せかい}を人^{もど}間の世界^{せかい}へ戻^{もど}してやってください。

湯婆婆 それでおまえはどうなるんだい！？その後^ごあたしに八^{やっ}つ裂^ざきにされてもいいんかい！？

千 この駅^{えき}でいいんだよね。…行^いこう。

つか も あ
「疲れて坊ネズミを持ち上げられないハエドリ。坊ネズミが自分で歩き出す。」

かた の
千 肩に乗っていいよ。

むし ある つづ
「坊ネズミは無視して歩き続ける。」

いっぽんあし でんとう と いえ みちあんない
「一本足の電灯が跳んできて、家まで道案内をする。」

銭婆 おはいいり。

千 失礼します。

銭婆 入るならさっさとお入り。

千 おいで。

銭婆 みんなよく来たね。

千 あっ、あのっ…！

すわ いま ちゃ い
銭婆 まあお座り。今お茶を入れるからね。

ぬす かえ
千 銭婆さん、これ、ハクが盗んだものです。お返しに来ました。

銭婆 おまえ、これがなんだか知ってるかい？

あやま
千 いえ。でも、とっても大事なものだって。ハクの代わりに謝りに来ました。ごめんなさい！

銭婆 …おまえ、これを持ってて何ともなかったかい？

千 えっ？

まも まじない き
銭婆 あれ？守りの呪いが消えてるね。

へん むし ふ
千 …すいません。あのハンコに付いてた変な虫、あたしが踏みつぶしちゃいました！

あやつ
銭婆 踏みつぶしたあ？…あっはははははは。あんたその虫はね、妹が弟子を操るために竜

はら しの こ
の腹に忍び込ませた虫だよ。踏みつぶした…はっはははは…

さあお座り。おまえはカオナシだね。おまえもお座りな。

もと
千 あっ、あの…この人たちを元に戻してあげてください。

銭婆 おや？あんたたち魔法はとっくに切れてるだろ。戻りたかったら戻りな。

(ふるふる)

いちにんまえ
銭婆 あたしたち二人で一人前なのに気が合わなくてねえ。ほら、あの人ハイカラじゃないじゃない？

ふたご
魔女の双子なんてやっかいの元ね。

おまえを助けてあげたいけど、あたしにはどうすることも出来ないよ。この世界の決まりだからね。
両親のことも、ボーイフレンドの竜のことも、自分でやるしかない。

千 でも、あの、ヒントかなにかもらえませんか？ハクと私、ずっとまえに会ったことがあるみたいなんです。

ばなし はや いちど わす おも だ
銭婆 じゃ話は早いよ。一度あったことは忘れないものさ…思い出せないだけで。

こんや てつだ
ま、今夜は遅いからゆっくりしていきな。おまえたち手伝ってくれるかい？

まほう つく
銭婆 ほれ、がんばって。そうそう、うまいじゃないか。ほんとに助かるよ。魔法で作ったんじゃ何にもならないからねえ。

にかいつづ
そこをくぐらせて…そう、二回続けるんだ。

あいだ
千 おばあちゃん、やっぱり帰る。…だって…こうしてる間にも、ハクが死んじゃうかもしれない。お父さんやお母さんが食べられちゃうかもしれない…。

かみど
銭婆 まあ、もうちょっとお待ち。…さあ、できたよ。髪留めにお使い。

千 わあ…きれい。

つむ いと あ こ
銭婆 お守り。みんなで紡いだ糸を編み込んであるからね。

千 ありがとう。

銭婆 いい時に来たね。お客さんだよ、出ておくれ。

千 はい。

千 ああっ…！ハク！

ハク、会いたかった…ケガは？もう大丈夫なの？よかったあ…

銭婆 ふふふ、グッドタイミングね。

千 おばあちゃん、ハク生きてた！

とが
銭婆 白竜、あなたのしたことはもう咎めません。そのかわり、その子をしっかり守るんだよ。さあ坊やたち、お帰りの時間だよ。また遊びにおいで。

坊ネズミ ちゅう。

てだす
銭婆 おまえはここにいな。あたしの手助けをしておくれ。

カオナシ あ、あ…

千 おばあちゃん！…ありがとう、私行くね。

と
銭婆 だいじょうぶ。あんたならやり遂げるよ。

千 私の本当の名前は、千尋っていうんです。
銭婆 ちひろ。いい名だね。自分の名前を大事にね。
千 はい！
銭婆 さ、お行き。
千 うん！
おばあちゃん、ありがとう！さよなら！

りゅう の と た
「竜に乗って飛び立つ千。」

きおく みず なが くつ
「記憶がフラッシュバックする。水に流れていく靴。水に落ちるだれか…。」

千 …ハク、聞いて。お母さんから聞いたんで自分では覚えてなかったんだけど、私、小さいとき川に落ちたことがあるの。

その川はもうマンションになって、埋められちゃったんだって…。

おも だ こはくかわ
でも、今思い出したの。その川の名は…その川はね、琥珀川。あなたの本当の名は、琥珀川…

しゅんかん はくりょう かがや うろこ は お
「瞬間、白竜から輝く鱗が剥がれ落ち、ハクの姿になっていく。」

千 ああっ！
ハク様 千尋、ありがとう。私の本当の名は、ニギハヤミ コハクヌシだ。
千 ニギハヤミ…？
ハク様 ニギハヤミ、コハクヌシ。
千 すごい名前。神様みたい。

ハク様 私も思いました。千尋が私の中に落ちたときのこと。靴を拾おうとしたんだね。

こはく あさせ はこ うれ
千 そう。琥珀が私を浅瀬に運んでくれたのね。嬉しい…

あさ あぶらや
「朝。油屋の前で皆が待っている。」

リン 帰ってきた——！
みんな おおっ…
湯婆婆 ぼう つ もど
湯婆婆 坊は連れて戻ってきたんだろうね？…えっ？
坊 ばあば！
湯婆婆 坊——！

ケガはなかったかい！？ひどい目にあつたねえ！…坊！あなた一人で立てるようになったの？
え？

ハク様 湯婆婆様、約束やくそくです！千尋と両親を人間の世界に戻してください！

湯婆婆 フン！そう簡単にはいかないよ、世の中には決まりきというものがあるんだ！

みんな ブー、ブー！

湯婆婆 うるさいよっ！

坊 ばあばのケチ。もうやめなよ。

湯婆婆 へっ？

坊 とても面白おもしろかったよ、坊。

湯婆婆 へえっ？でででもさあ、これは決まりなんだよ？じゃないと呪まじないとが解けないんだよ？

坊 千を泣なかしたらばあばきら嫌いになっちゃうからね。

湯婆婆 そ、そんな…

千 おばあちゃん！

湯婆婆 おばあちゃん？

千 今、そっちへ行きます。

千 おきておきて 掟おきてのことはハクから聞きました。

湯婆婆 フン、いい覚悟だ。これはおまえの契約書けいやくしょだよ、こっちへおいで。…坊、すぐ終わるからねえ。

千 大丈夫よ。

湯婆婆 この中からおまえのお父さんとお母さんを見つけな。

チャンスは一回だ。ピタリと当てあられたらおまえたちじゆう自由だよ。

千 …？おばあちゃんだめ、ここにはお父さんもお母さんもないもん。

湯婆婆 いない！？それがおまえの答えこたかい？

千 ……うん！

「ボン！と破れ消える契約書けいやくしょ。」

湯婆婆 ヒッ！？

ぶた ば じゅうぎょういん 豚あに化けた従業員たち おお当たり——！

みんな やったあ！よっしゃ——！

千尋 みんなありがとう！

湯婆婆 行きな！おまえの勝^かちだ！早くいっちまいな！

千尋 お世話になりました！

湯婆婆 フン！

千尋 さよなら！ありがとう！

千尋 ハク！

ハク様 行こう！

千尋 お父さんとお母さんは！？

ハク様 さき^{さき} 先^{さき}に行ってる！

千尋 水がない…

ハク様 私はこの先には行けない。千尋は元^{もと}来^きた道^{みち}をたどればいいんだ。でも決^{けつ}して振り向^ふい
ちやいけないよ、トンネルを出るまではね。

千尋 ハクは？ハクはどうするの？

ハク様 私は湯婆婆と話をつけて弟子をやめる。平^{へい}気^きさ、ほんとの名^なを取^とり戻^{もど}したから。
元の世界に私も戻るよ。

千尋 またどこかで会える？

ハク様 うん、きっと。

千尋 きっとよ。

ハク様 きっと。

さあ行きな。振り向かないで。

むす て なごりざんお はな
「結^{むす}んだ手が名^な残^{ざん}惜^おしそうに離^{はな}れる。」

もん い ぐち
「門^{もん}の入り口^{いぐち}で、父^{ちち}と母^{はは}が待^{まち}っている。」

母 千尋一。なにしてんの、はやく来なさい！

千尋 ああっ…！

お母さん、お父さん！

母 だめじゃない、急^{きゆう}にいななくなっちゃ。

父 行くよ。

千尋 お母さん、何ともないの？

母 ん？引越^{ひっこ}しのトラック、もう着^ついちやってるわよ。

ふ む
「振り向こうとして、とどまる千尋。」

父 千尋一。早くおいで一。

あしもとき
足 下気をつけな。

母 千尋、そんなにくっつかないでよ。歩きにくいわ。

でぐち
父 出口だよ。…あれ？

母 なあに？

父 すげー…あっ、中もほこりだらけだ。

母 いたずら？

父 かなあ？

母 だからやだっっていったのよー…

母 オーライオーライ、平気よ。

父 千尋、行くよ一。

母 千尋！早くしなさい！

む み め ひるがえ かみ まも ひか
「トンネルの向こうを見つめる目を、 翻す千尋の髪にあのお守りが光っていた。」

おわり